

かたぎぬ

肩衣って？



～真宗門徒の生活を始めよう～

「肩衣」をかけるということは、仏さまとの対面の際に、威儀を正す、つまり姿勢を正すという意味合いがあり、仏前における真宗門徒の正装とされています。現在の「肩衣」は江戸時代の礼服であった^{かみしも}袴の上が簡略化されたものといわれており、報恩講をはじめ、朝夕のお勤め、月忌参り、お講、聞法会、年忌法要、葬儀、真宗本廟収骨にいたるまで、仏事の最初から最後まで肩衣を着用することが真宗門徒の心得です。

仏説無量寿経には、

「^{なんじ た}汝、^{さら えぶく ととの}起ちて更に衣服を整え^{がっしょうくぎょう}合掌恭敬して、^{むりょうじゅぶつ らい}無量寿仏を礼したてまつるべし。」（『真宗聖典』第2版 p.85）

とあり、衣服を整えて敬虔な気持ちでお参りすることが教えとして説かれています。真宗門徒として、念珠・勤行本と共に肩衣を必ず持参し、お講、お寺や本山（東本願寺）へお参りしましょう。

「肩衣」は、帰敬式を受式された方への記念品、または相続講の賞典として個人の収納額によりお渡ししております。詳しくは小松大聖寺教務所までおたずねください。

真宗大谷派 小松大聖寺教務所
石川県小松市小馬出町 26
TEL : 0761-22-0555